

# 城北



平成30年5月1日現在	
総世帯数	3,201
総人口	7,756
男	3,678
女	4,078

## 城北の 松本は 普通選挙発祥の地

松本市中央図書館の南前庭に変わった形の石像があります。この像は松本が普通選挙運動発祥の地であることを後世に伝え続けるため、普選70年を記念して平成7年に建てられました。3本の黒い柱は「納税資格全廃」「選挙人は20歳以上の男子」「被選挙人は30歳以上の男子」という3大目標とこの運動の中心人物だった木下尚江・中村太八郎・降旗元太郎を表し、白い柱はその他の同志と「婦人参政権」



「普通選挙 期成同盟会」  
明治29年12月、木下尚江・中村太八郎らは同志と語らって、松本に「平等会」、翌30年東

### 普通選挙とは

明治23年(1890年)国会開設の際、選挙権は直接国税15円以上を納めるごく一部のの人に限られる「制限選挙」でした。これを国民平等に誰もが参政できる「普通選挙」の実現へ向けて期成同盟会が産声をあげました。主唱したのは自由民権運動で全国に知られた松本奨匠社の影響下に育った人達でした。

### 活動の全国展開

木下尚江は非戦・キリスト教社会主義者として、社会主義協会・労働組合期成会と連携し普通選挙を全国に広めました。  
中村太八郎は活動の拠点を東京に移した後、東亜青年会、国家社会党を結成するなど幾つかの組織を立ち上げました。大正年代は同志数人と請願を継続、大正3年に普選同盟会を再興しました。

### 普通選挙制度の成立

大正8年、第一次世界大戦の戦後恐慌などで世界的に人権意識が高まるなかで、大正14年になってようやく普選案が両院で可決され、5月5日に選挙法が施行されました。同盟会結成から28年の年月を費やし幾多の困難を乗り越えての成立ですが、高額な供託金・女性の排除など真の政治的平等には程遠いものでした。

### 徒士町の鎮火祭

4月15日、火災から町を守って欲しいという願いを込めた「鎮火祭」が徒士町でありました。  
鎮火祭は、昭和30年から続いているお祭りです。まだ商店街が続いていた町内で火災があったことから始められたという事です。

松本市では、江戸時代末から明治にかけて千戸以上焼ける6度の大火がありました。中でも裏町から出火した明治45年の大火は、南寄りの風



お参り

に煽られて同心町から堂町や西町、旗町を焼き尽くしましたが、徒士町は幸いにもこの大火から免れました。  
こうしたことから、徒士町では昭和30年代に入ってから毎月15日には火の用心を呼びかける一方、4月15日には「鎮火祭」を開くようになったという事です。  
この日は生憎の雨降りになり、町会の代表者3人が町から約3km離れた火除けの神を祀る秋葉神社に行き、社頭にお神酒を供え拍手を打って町の安泰を祈りました。  
例年ならば、お祭りに参加した人たちが神社下の広場で花見をしながらの直会でしたが、今年は町内の会社の事務所を借りて30人ほどの直会になりました。

# 児童館から児童センターへ



平成31年4月1日、蟻ヶ崎児童館が沢村公園南へ「児童センター」として移転します。

児童館は昭和46年（1971年）旧射撃場跡西側の山の斜面を削って開館しました。以来半世紀にわたり児童、幼児の遊びや学習、運動などの育成の場となってきました。しかし、施設の老朽化が進むとともに地質調査の結果、

自然災害に対応できないことから、関係者の10年余りの土地探しや署名活動などの努力、それに土地提供者の協力を得ることができ、本格的に移転計画がスタートしました。

児童館では、児童の自由来館のほか、放課後に留守家庭となる児童を有料で預かる「放課後児童育成事業」、保育園や幼稚園に入園前の幼児と保護者を対象にした「つどいの広場」などの事業を実施しています。有料登録者は現在78人で、施設の規模をはるかに超えています。放課後は多くの児童で大にぎわいです。このため、職員の目が行き届かないといった問題もあり、早期の移転が望まれていました。

新しい児童センターは、建築面積が400㎡で2倍になります。それでも狭いことや、周辺道路が狭く工事用大型車両が出入りできないことなどの問題を抱えています。「児童センター」は、「NPO Oしろがね」の運営のもと新たに開館します。

## 焼岳の歴史 いろいろ



上高地にある焼岳（2455m）の噴火の歴史とともに焼岳に関わった人々たちを紹介する講演会が4月14日に城北公民館でありました。

講師を務めたのは、前主事の牛丸工さんで、牛丸さんは22年前に大正14年（1925年）の焼岳の噴火の写真を見たのを切っ掛けに、焼岳の歴史を調べる一方、個人や関係機関が所有している写真がいつ撮影されたものかなどを調べようになりました。

焼岳は記録上は今から1388年前に噴火したといわれる活火山で、今でも山頂から水蒸気が立ち上っています。特に大正4年（1915年）の大噴火では、泥流が梓川をせき止め、上高地名物のひとつの「大正池」を出現させま

した。牛丸さんは、50数枚の写真をストックインに映しながら焼岳の歴史とともにこれらの写真した。牛丸さんは「これらの写真は火山学の研究や防災を考える上でも参考になるのではないか」と講演を締めくくりました。

真が撮影された場所や月日を解説しました。このうち噴火直後とみられる6枚の写真は、たまたま上高地に滞在していたアメリカの宣教師が噴火の翌日に撮影したもので、当時松本測候所に勤務していた現地調査に当たっていた大久保久寿（堂町）が貰い受け、博物館に寄贈したものと分かったということです。

## 5/12 白金町会視察学習



今回の目的地 ▼

▲ みんなでニコリ!



▲ サービスエリアでひと息



道の駅、珍しいものありました ▼